（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「おんだんか　副題　天災と人災」
事業主体 （連絡先）	NPO 法人チルドレンズ・ミュージアム 理事長　井口知彦
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	2,293,783 円（うち支援金：1,835,000 円）

事 業 内 容

○「おんだんか　副題　天災と人災」をテーマにした小冊子　8p を配布し、天災や人災の原因及び緊急性を学んだ。また、実際に発電する 4 種の模型を観察し、「発電の仕組み」を学んだ。また、科学体験展示品を媒体として、現実と仮想現実の違いを体得を通して学んだ。工作教室を併催したが「絶滅危惧種」をテーマに、自分たちの身の回りにも絶滅していく動植物がいることを学んだ。

【講座の様子】

【目標・ねらい】

① 絶滅危惧種と生活との関係
② 現実と仮想との違いを学ぶ
③ 科学の原理、原点の体得
④ 発電の仕組みと生活

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①絶滅危惧種は、遠い世界の話ではなく、自分の身近な生活にもみられることを認識した。
②視聴覚優先のデジタル科学と五感を使ったアナログ科学の違いを五感で感じ取った。
③体験不足を補うため、「科学の原理、原点」を五感を通して学ぶ機会となった。
④「発電」はどのように行われるかを模型を通して学んだ。
⑤計 15 回開催　参加者総数 733 人（目標:750 人）
　1 開催 48,9 人

※自己評価【　A　】

【理由】
・大人社会は、「温暖化」に対する危機感がない。その理由として、「経済活動の縮小」があるが、子どもたちにはそのような利害関係がなく、素直に受け入れてくれる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。（今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など）。

・「地球規模で存在の継続が危ぶまれている。」緊張感をもって、この現実を伝えることを目指す。

令和６年 ノーベル物理学賞 ヒントン博士の言葉

カリフォルニア州のホテルでノーベル賞記者会見の電話インタビューに応じ「自分たちよりも賢いものがどんなものなのか、私たちは経験していない」と述べ、「医療などの分野では多くの点で素晴らしいことになる」と指摘。一方で「さまざまな悪い結果も懸念しなければならない。特に、こうした技術が制御不能になり人類の絶滅につながる恐れがある」と語った。自らが開拓した技術の危険性についてより気軽に語れるよう昨年グーグルを退職したことで話題になった。英国生まれで現在トロント大学名誉教授。（マイクロソフト社とグーグル社）

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある